

## 令和元年度第1回 尼崎市いじめ問題対策連絡協議会（要旨）

日時 令和元年8月1日(木) 15時00分から17時00分まで  
場所 尼崎市立青少年センター 1階 研修室  
出席者 委員20人（代理出席含む。）

### 会議要旨

#### 1 開会

出席状況等の確認

#### 2 協議事項

(1) 尼崎市立中学校いじめ事案に関する概要説明及びいじめにおける共通認識について **資料1**  
事務局より、資料1及び尼崎市いじめ防止基本方針に基づき説明があった。

(2) 子どもの育ち支援センター（いくしあ）の取組について

尼崎市こども総合相談第1担当課長より、令和元年10月1日よりオープンする「子どもの育ち支援センター（いくしあ）」での取り組む内容などについて説明があった。

(3) いじめ防止等のための取組について

事務局より、議題の趣旨の説明があった後、各グループ（A～D）に分かれてワークショップを実施した。

#### ワークショップの実施内容

- ① いじめ問題の未然防止・早期発見のために、学校・地域・行政ができそうな取組の発表
- ② ①で出た取組を実施するに当たっての課題の抽出
- ③ ②で出た課題を解決・解消するための対策について検討

#### \*各グループの意見

（Aグループ）

いじめ対策の取組とすれば、「人」と「場所」、そして、「研修」、「保護者」、「信頼関係」、「話し合い」というのが大きな課題として挙がりました。特に、「人」と「場所」に関しては、やはり、いじめ対策の取組が必要なのではという話し合いになりました。

また、子どもたちに多様な居場所が必要だったり、学校行事や相談できる窓口を増やしていくということが必要なのではという話し合いにもなりました。

保護者との関係も今後大事になってくるので、早期発見のためには、保護者も巻き込んで一緒に取り組んでいき、ただし、個人情報の取り扱いや、家庭の状況なども鑑みて、対策していかなければならないということと、その中で、対応していくチームや、学校の先生、関係機関等の信頼関係がいじめ対策をしていく上では必要だという話も出ました。

そういった話し合いの中から、先生方や関係機関などの「サポーターが必要」、あとは、「スマホ」や「友人関係の希薄さ」など、色々な信頼関係というのが課題であるということになりました。

対策としては、「スマホは18歳になってから使用する」といった斬新な意見や、「フィルタリングをかけたり、指導していく」、「使用ルールを作る」、そのほかには、「子どもたちの居場所をつくる」、「関係機関も一緒になって取組を行う」、「多様性を許せる社会を実現していく」といったことが意見として挙がりました。

それらを実施するためには、やはり、学校や地域などの関係機関の取組などが充実することが必要になってくるということで、意見をまとめました。

#### (Bグループ)

「相談窓口」を重視して、様々な方法で情報を収集する場所を作っていこうという考えが出ました。被害者の駆け込み先であるとか、学校の担任やクラブ活動の顧問と接する機会を増やしたり、地域や保護者からも情報を収集していったらどうかという意見がありました。

また、校内の体制として、校内のいじめ防止委員会での報告の方法を見直し、事案が発生してからではなく、心配な子がいたら報告するということと、職員室の風通しを良くしていくのが一つのポイントになるだろうということでまとめました。

あとは、スキルアップということで、大人も子どももトレーニングが必要だということが課題として挙がりました。

学校現場の現状としては、「時間がない」、「忙しい」、「改革が必要」というように受け止めました。

そのほか、家庭でも心のゆとりがないのだろうとか、個人的には社会主義・自己主義というところが多いのではないかと、コミュニケーションが少ないのだろうというような部分が課題だと思いました。

行政の課題では、「予算の確保をしていただきたい」や「時間が掛かってしまう」という意見もありました。

対策としましては、「いろいろな人と話す機会を作る」、「あえて不便な状況をつくって、体験する」とか、「教員が相談できる場所をつくる」などがありました。

行政では、「縦割りによって、すべての問題を解決するまでに時間が掛かってしまうので、その部分の意識改革が必要である」ということ、また、家庭では、「いろいろな人と話す機会をつくり、家庭教育をしっかりとしたら、学校がもっと楽になる」という意見がありました。

他には、地域社会ということで、地域の祭りなど、地域とのつながりも大切にしていきたいという意見もありました。

#### (Cグループ)

まず、「居場所をつくる」、「情報の収集」、「いろんな体験活動の実施」、「研修によるスキルアップ」、「地域で見守る」というのが大事だという意見がありました。

多く挙げた意見が、「子どもに向き合う」ということで、地域や行政がどう関わっていけるかという話し合いをしました。

課題については、「研修を実施するための資金がない」とか、「個人情報の取り扱いという条件があって難しい」、ほかには、「大人がSNSに追いつけていない」、「学校以外の居場所について」などが挙げられました。

対策については、やはり「研修するための予算をつける」、「忙しい中で、子どもとどのように関わるのが大事である」、「いろいろな人と知り合いになって情報共有をする」という意見が出ていました。

#### (Dグループ)

「地域の子育ての力を高める」というのが一番大事だという話し合いになりました。そのほかにも、早期発見ということで、行政の相談窓口や、SOSミニレターの配布・回覧や、アンケートなどの意見もありました。

また、家庭での言葉遣いや接し方が、子どもの行動に出てきます。例えば、子どもの話す言葉は、家庭で使われている言葉がほとんどなので、そういったことを家庭になるべく知ってもらって、子育てにつなげてもらえたらということになりました。

いじめによる自死などもそうですが、そのほかの家庭内での圧力や、習い事などのプレッシャーなどが原因の自死についても、家庭での接し方を変えていければ防げるのではという話し合いになりました。

あとは、子どもの良いところを伸ばしていこうとか、幼児教育のときから心を育てる、また、地域がしっかりしていれば、幼児教育以前の乳幼児期の子どもたちにも、そのような意図をもって接することができるのではないかということで、そのために、地域・家庭・学校の3者がコミュニケーションを取り合って関係性を保たないといけないのですが、コミュニケーション能力が大事になってきますので、伸ばしていくことが必要で、さらに、学校の中でも教師と子どもが関わる時間を増やしたり、信頼関係を作っていかなければならないという意見もあったのですが、業務改善というところをしていかないと、教師と子どもが関わる時間がかなり減っており、多忙さに駆られて子どもの変化を見過ごすことがあるので、そういったことも併せて取り組んでいかないといけないという話が出ました。

それらを実施するにあたっての課題で、1番挙がった意見は「多忙」「忙しい」で、教師も忙しいけども、親も忙しく、家庭も忙しくなるので、子どもにかかる時間が少なくなり、子どもの話がなかなか聞けない、気が付いた時には手遅れであるという状態になってしまいます。

学校の先生も親でもあるので、多忙さという部分は課題になってきます。多忙さ以外には、「人員が不足している」や、風潮の部分で「放任主義」や、勘違いで「褒めて育てる」という部分もあるのではないかと思います。

最後に、対策の部分で、一番言いたいのは「良い人材や人員をつけてほしい」、それと同時に「業務改善」、また、子どもと接する時間は「大人が増やす」というのが一番大事だということになりました。

SNSの話も挙がりましたが、子どもだけで講習をしても意味がないので、大人向けにも講習をいかに効果がないのですが、でも、そのような研修や知識を取得するまでには時間が必要になりますので、そのためには、やはり、「人を増やす」と「業務改善」をしていかなければということになりました。

#### (4) その他

事務局から会議内容を尼崎市ホームページにて公開することを説明のうえ、了承を得た。

以 上